

# 逢ひにゆく八十八夜の雨の坂

藤田湘子

「逢引、逢瀬」の「逢ひ」の漢字。好ましく無い出来事に遭遇する感じの「逢遭」などもある。どう考えても、一般的には男女の親密な出逢いを想像してしまう。

八十八夜は、立春から数えて八十八日目。太陽暦なら五月一日か二日頃に当たる。「八十八夜の別れ霜」なる天象なども思い出され、ますます女人との曰く言いがたい別れ話までありそうな雰囲気が漂うことは否めない。

例えばそれが、時期的には作者の師事した水原秋櫻子宅への往路だったと言われても、私には理解し難い。

「会う」ではなく「逢う」と書かれ発表された俳句は、あくまで男女の恋句と読めるのだから。一度発表すればそれが全て。俳句は、文芸である。